

## 「三嶋曆師の館」リニューアルオープン



館の外観1



館の外観2

三島市大宮町の三島市立博物館「三嶋曆師の館」(写真上左右)が令和2年9月1日(火)リニューアルオープンしました。

この建物は、奈良時代に京都から移住してきたと云われる河合家(社家の旧家)で三嶋大社の東側に有ります。同家は古くは国の祭事を司る役に有り、庭の一角に天文台を建て、屋内には作業場を設け、代々、三嶋曆を製造販売してきたと伝えられています。

※社家(しゃけ)とは: 神事に直接関わる集団



館の外観3



館の玄関1

現在の建物は、安政の大地震(1854年)で主屋が倒壊した後に、葦山代官の江川太郎左衛門の肝いりで、十里木(裾野市)の関所の廃屋を使って建てられたもので、奥座敷は少し高めの、上段の間となっていて格式の高さが感じられます。

三島市では、この歴史ある建物を河合家から寄贈されたのを機会に、せせらぎ整備事業の一環として平成17年(2005年)に整備し、4月から曆の歴史・文化に親しめる場所として活用できるようにしました(写真上左右)。

展示品としては 1、三嶋曆・三嶋曆の版木・三嶋曆の関連資料  
2、三嶋茶碗  
3、三四呂人形、等が展示されています。

※三四呂(みよろ)人形とは: この人形の名前は三島出身の人形作家、野口三四郎の名にちなんだものです。



**館の玄関2**



**館の玄関3**

新型コロナウイルス感染症予防のため、「三嶋曆師の館」入り口には消毒液と、入場時の注意事項が掲載されています。掲示内容を遵守し…そして入場です(写真上左右)。



**一藤木さん**

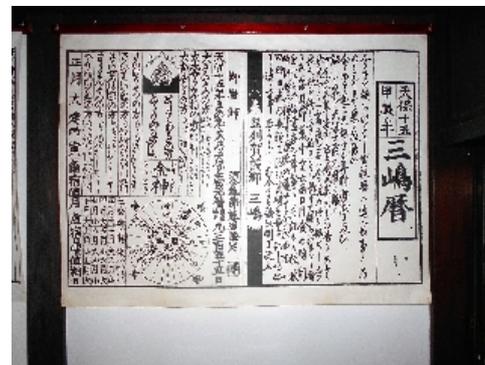


**登録有形文化財**

入口の板木を打って入場すると…「三嶋曆の会」ボランティア案内人の、一藤木(いっとうき) 秀光さん(69)のお出迎えです。そして、この三嶋曆師の館(旧河合家住宅主屋)は平成18年10月、国の「登録有形文化財」に指定されています(写真上左右)。



**三嶋曆1**



**三嶋曆2**

三嶋曆は伊豆国賀茂郡三島の曆師、河合家が代々曆算し、貞享(じょうきょう)の改曆(1685年)まで河合家独自の遍歴が続いていました。以後遍歴は江戸幕府や明治政府の手に移されましたが、明治18年(1886年)頃まで同家は曆家として継続していました。

河合家伝承によれば、同家は奈良時代の779年ごろ、山城国賀茂(京都)より移住し、貞観(じょうがん)年間(9世紀末)頃より作曆開始とあります。

現存する最古の三嶋曆は永享(えいきょう)9年(1437年)のもので、足利文庫(栃木県足利市)に所蔵されています。また文献上に登場するものでは、応安7年(1374年)が最古となります。

三嶋曆の特色の一つに仮名版曆(かなばんれき)という事が挙げられます。木版印刷の曆としては、日本で最古の曆であろうと言われています。また三嶋曆の最も普及した形は、綴り曆(冊子型)でした。

曆の印刷は、日本の印刷の発展から考えてみても興味深いものがあります(写真上左右)。



[屋根瓦展示](#)



[上段の間1](#)

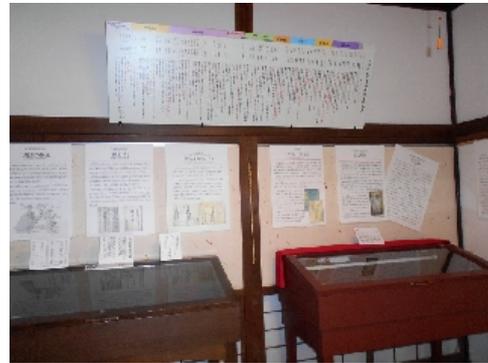
三嶋暦師の館(旧河合家)の屋根瓦には写真上左のような5種類の、紋が入った瓦が使用されています。

瓦については三島周辺で使用の瓦を集めたと推測されます。由緒ある瓦(掛川城・沼津城などでも使用)が使われています(写真上左)。

そして見学順路に沿って行くと…「上段の間」です(写真上右)。



[上段の間2](#)



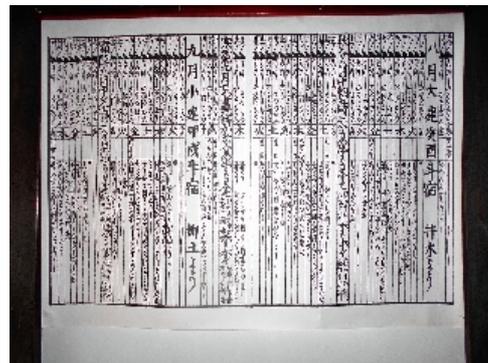
[展示品1](#)

令和2年9月1日(火)リニューアルオープン(約4か月間を休館し改修工事を実施)の式典では、三島市の豊岡武士市長より「三嶋暦は広く知られているが、さらに普及に努めたい」とのご挨拶。

当館でガイドを務める三嶋暦の会の、山形克衛会長(79)は「お客さんを受け入れる態勢が整った。貴重な資料があるので、ぜひ訪れて下さい」と話されました。



[展示品2](#)



[展示品3](#)

館内は、巻物や冊子、1枚刷りなど各種の三嶋暦、さまざまな暦の説明パネルなどがあり、リニューアルに合わせて展示されている資料の解説も一新されました(写真上左右)。



展示品4



展示品5

三嶋暦は、現在の太陽暦と違い、月の満ち欠けに基づき計算された太陰太陽暦(旧暦)です。太陰暦は、新月～満月～新月の29.5日を1か月の単位としました。0.5日は端数なので、1か月の日数を29日(小の月)、30日(大の月)としています。1年の12か月に6か月ずつ、小の月、大の月を入れても、1年＝354日にしかありません。しかし季節は365日で一巡するので、太陰暦では11日程ずれてしまいます。その結果、3年間では約1か月の差が生じてしまいます。

そこで3年に1回、1年を13か月にして季節を合わせていました。

三嶋暦の関連資料、また暦制作で使用した版木や硯(すずり)など数多く展示されています(写真上左右)。



展示品6



制作案内チラシ

日本及び三島の暦法史略の年表です(写真上左)。そして体験コーナーでは木版印刷した三嶋暦で、竹製のうちわを作る体験コーナー(500円)が設けられ、参加者がスタッフの手ほどきを受け挑戦していました。

### 「三嶋暦師の館」ご利用案内

- ・所在地: 三島市大宮町2丁目5-17
- ・開館時間: 午前9時30分～午後4時30まで
- ・休館日: 月曜日(その日が祭日時は、その翌日)
- ・交通案内: JR三島駅南口より徒歩20分
- ・車の場合→駐車場はありません。  
近くの三嶋大社駐車場をご利用下さい、徒歩5分。  
(有料200円/1時間)
- ・利用料: 入館料は無料です  
(企画展などで材料費の実費を頂く事が有ります。)
- ・お問合せ: 三島市産業文化部商工観光課  
TEL: 055-983-2656

取材: 中伊豆地区担当 生きがい特派員 安藤 智章